

# 第71回全国肢体不自由教育研究協議会

## 第62回北海道肢体不自由教育研究大会 旭川大会

### 北海道大会

主催: 全国特別支援学校肢体不自由教育校長会

共催: 北海道肢体不自由教育研究協議会

主管: 北海道特別支援学校肢体不自由・病弱校長会

後援: 文部科学省 北海道教育委員会 旭川市教育委員会

全国肢体不自由特別支援学校 PTA 連合会

日本教育公務員弘済会北海道支部

### 大会開催要項

1 大会主題 「肢体不自由教育の充実をととした共生社会形成の推進」  
～ ウェルビーイングの向上をめざした子ども主体の学びの充実 ～

2 期日 令和7年11月19日(水)～11月21日(金)

3 会場 ◆ 全体会・分科会等 ◆ 全国特別支援学校肢体不自由教育校長会研究協議会  
アートホテル旭川 : 北海道旭川市7条通6丁目29番地2 Tel0166-25-8811  
◆ 学校公開  
北海道旭川養護学校 : 北海道旭川市春光台2条1丁目1-8 Tel0166-51-6507

4 日程

【1日目】11月19日(水)

★ て、旭川市内と旭川養護学校間のシャトルバス運行予定(1日目・2日目・3日目とも)

9:00~ 9:30	9:50~11:20	11:30~	12:00 ~12:30	12:30 ~13:00	13:00 ~13:45	13:30 ~14:00	14:00~16:00	16:10~17:00
受付	学校公開 part I	移動	昼食・休憩	代表校長 受付	代表者 研究協議会	校長会受付	校長会全体研究協議会	分科会 運営打合せ
北海道旭川養護学校			アートホテル旭川					

★ ★

【2日目】11月20日(木)

9:00~ 9:30	9:50~11:20	11:30~	12:00 ~13:15	13:15 ~13:45	13:50~14:50	14:50 ~15:05	15:05~17:15	
受付	学校公開 part II	移動	受付 昼食・休憩	開会式	文部科学省講話	休憩・移動	分科会	
北海道旭川養護学校			アートホテル旭川					

★ ★ ※教育懇談会(アートホテル旭川) 18:00~

【3日目】11月21日(金)

8:50~ 9:10	9:10~10:15	10:15 ~10:25	10:25 ~11:25	11:25 ~11:35	11:35 ~11:45	11:45 ~12:15	12:15 ~ 13:30	13:30 ~14:30
受付	記念講演	休憩・移動	ポスター発表	休憩・移動	プレゼン カップ情報	閉会式 (総評)	移動 休憩 昼食	学校公開 part III
アートホテル旭川							旭川養護学校	

★ ★



## 祝 辞

文部科学省初等中等教育局 視学官

(併) 特別支援教育課特別支援教育調査官 菅野和彦

第71回全国肢体不自由教育研究協議会北海道大会の開催にあたり、お祝いの言葉を申し上げます。

はじめに、本日ご参会の皆様方におかれましては、日頃より肢体不自由教育の充実と質の高い学びの実現に向けた取組にご尽力いただいておりますことに心から御礼申し上げます。

さて、昨年12月に「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方」が諮問され、顕在化している課題として、主体的に学びに向かうことができていない子供が存在していること、現行の学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ばであること、GIGAスクール構想による一人一台端末等の効果的な活用はまだ緒に就いたばかりであることが述べられ、主な審議事項が示されました。現在、文部科学省では、各学校種又は各教科・科目の改訂の方向性に関する検討に先立ち、教育課程企画特別部会において、諮問された事項に関する基本的な方向性を検討しています。本年7月4日に開催されました第10回では、障害のある子供に対する教育課程の充実について検討されたところです。特別支援学校については、自立活動と各教科等との関連付けをこれまで以上に徹底することをはじめ、小・中、高等学校の各教科に準じつつ、知的障害の特性や発達の段階等を踏まえた構造化や、交流及び共同学習の重要性などの方向性が示されたところです。今後、これらを踏まえ、特別支援教育に全般について検討する予定となっています。皆様には、様々な機会を捉え、情報提供をして参ります。

次に、肢体不自由教育においては、教育課程を軸としたカリキュラム・マネジメントや、支援機器や補助具等の活用のもと、一人一人の障害の状態等に応じた素晴らしい授業実践をこれまで数多く積み重ねてきました。一方で、重複障害のある子供たちも含め、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通じ、各教科等の資質・能力の育成を図る指導実践の積み重ねについては、道半ばであると認識しております。ぜひ、本研究協議会における分科会やポスター発表などでの発表者への質問や意見交換等を活発に行い、肢体不自由のある子供たちに対する質の高い学びを実現する授業実践につなげていただくことを強く願っています。

結びに、本大会の準備・運営にご尽力をいただきました実行委員長の北海道拓北養護学校の高木校長をはじめ、多くの関係者の皆様に感謝申し上げますとともに、全国肢体不自由教育研究協議会の益々のご発展を祈念し、お祝いの言葉といたします。



## 祝 辞

北海道教育委員会教育長 中 島 俊 明

雄大な大地と四季折々の自然に恵まれたここ北海道において、第71回全国肢体不自由教育研究協議会北海道大会及び第62回北海道肢体不自由教育研究大会が、開催されますことに、心からお祝いを申し上げます。

本日御参加の皆様には、全国各地から初雪の舞うここ旭川へお越しいただきましたことに、心から歓迎を申し上げます。

また、全国肢体不自由教育研究協議会におかれましては、発足以来、組織的に全国の肢体不自由教育の充実・発展に向けて取り組まれておりますことに深く敬意を表します。

さて、現在は、先行き不透明で予測困難な時代が到来しており、こうした社会の変化に対応し、障がいのある子どもがよりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるよう、全ての学校において、これまで以上に子ども一人一人の教育的ニーズに応じた質の高い特別支援教育を推進していくことが求められています。

このため、肢体不自由の特別支援学校や特別支援学級におきましては、肢体不自由のある子どもは、身体の動きに困難があるため様々なことを経験する機会が不足したまま言葉や知識を習得していることがあるため、言葉を知っていても意味の理解が十分ではなかったり、概念が不確かなまま用語や数字を使ったりしていることがあることから、身体の動きやコミュニケーションの状態、認知の特性等に十分配慮したうえで、子どもの興味・関心を生かした自主的、主体的な学習を進めることが大切です。

特に、各教科等の指導に当たっては、具体物を見る、触れる、数えるなどの活動や、実物を観察する、測る、施設等を利用するなどの体験的な活動を効果的に取り入れ、感じたことや気付いたこと、特徴などを言語化し、言葉の意味付けや言語概念等の形成を的確に図る学習が行うなど、子ども一人一人の障がいの程度に十分配慮しながら様々なことを経験できるよう工夫することが大切です。

このような中、本研究協議会が、「『肢体不自由教育の充実をととした共生社会形成の推進』～ウェルビーイングの向上をめざした子ども主体の学びの充実～」の大会主題の下、文部科学省による講話、自立活動の時間の指導の工夫や個別の指導計画に基づいた授業実践など10の分科会、3日間にわたる旭川養護学校の学校公開など、幅広い視点で研鑽を深められますことは、今後の全国の肢体不自由教育の充実につながる貴重な機会となるものと確信しております。

御参加の皆様には、熱心な研究協議等を通して、多くの成果を上げられますとともに、北海道から発信される実践が全国の学校で活用されますことを御期待申し上げます。

結びに、本大会の開催に御尽力されました皆様から心から敬意を表しますとともに、全国肢体不自由教育研究協議会の益々の御発展と皆様の御健勝、御活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉いたします。



## お祝いの言葉

旭川市教育委員会教育長 野崎 幸宏

第71回全国肢体不自由教育研究協議会北海道大会及び第62回北海道肢体不自由教育研究大会旭川大会がここ旭川市において開催されますことに心からお祝いを申し上げますとともに、全国から本市にお越しくださいました皆様を心より歓迎申し上げます。

全国肢体不自由教育研究協議会の皆さまにおかれましては、日頃より熱心に教育研究を深められ、肢体不自由特別支援教育の更なる充実・発展にご尽力いただいていることに深く敬意と感謝の意を表すところであります。

全国的に少子化が進展し、国の調査ではこの10年間、義務教育段階の児童生徒が1割ほど減少しておりますが、肢体不自由教育を受ける児童生徒数はそれほどの減少はしてはおりません。本市においては、障がいの重度・重複化や医療的ケアを必要とする児童生徒が増えていることから、よりきめ細やかな特別支援教育の実現が求められているところであり、現在、市内小中学校に通う3名の児童生徒に対し、4名の看護師資格を有する補助指導員を配置することで、それぞれのニーズに応える支援を実施しております。

学校教育におけるウェルビーイングの実現は、すべての子どもが自分らしく生き、自らの可能性を最大限に発揮できる社会の礎になるものであり、多様な背景やニーズをもつ肢体不自由のある子どもたちにとっては、心身の安全・安心が保障され、自分の声が尊重される環境こそが、学びの意欲と主体性を育む原動力につながるものと認識しております。子ども一人ひとりの思いや願いに寄り添い、学びのプロセスの中で自律性とつながりを育てていく教育実践は、これからのより良いインクルーシブ教育システムの構築に必要な取り組みであり、本大会において「肢体不自由教育の充実をととした共生社会形成の推進～ウェルビーイングの向上を目指した子ども主体の学びの充実～」を研究主題としたことは大変時宜を得たものであり、大いに期待をしているところであります。

本大会が全国の先生方や支援者の皆さまの知見を共有し合い、子ども主体の学びを支える実践や研究がさらに深まり、誰もが安心して共に学び、共に生きる社会の実現に向けたものとなることを、心より願っております。

最後になりますが、本大会の開催に当たり、御尽力をいただきました関係者の皆様に深く感謝を申し上げますとともに、本研究協議会の益々の御発展と会員の皆様のより一層の御活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。



## 挨拶

全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会長  
東京都立光明学園統括校長

島 添 聡

皆様、本日は第71回全国肢体不自由教育研究協議会北海道大会、第62回北海道肢体不自由教育研究大会旭川大会にご参加いただき、誠にありがとうございます。全国各地からご参集いただいた先生方、関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

本大会は、肢体不自由教育に携わる私たちが、日々の実践を振り返り、未来への展望を語り合う貴重な機会です。今年度の大会主題は、「肢体不自由教育の充実をとおした共生社会形成の推進」～ウェルビーイングの向上をめざした子ども主体の学びの充実～です。この主題には、子どもたち一人ひとりが自らの意思で学び、成長し、社会の一員として尊重されることを目指す、私たちの強い願いが込められています。

肢体不自由のある子どもたちが、自らの力で学び、社会とつながり、豊かな人生を歩むためには、教育環境の整備と共に、教師の学び続ける姿勢が問われます。各教科と自立活動の関連、ICT機器の活用、医療的ケアの安全な実施、地域との連携など、教育の質を高めるための取り組みは多岐にわたります。

本大会では、これまでも全国の先生方が情報共有や課題解決に向けた協働を進めてまいりました。各地域の特色ある実践を学び合い、互いに刺激を受けながら、より良い教育の実現を目指してきたことは、私たちの誇りです。

本大会が盛大に開催できましたことは、文部科学省初等中等教育局視学官（併）特別支援教育課特別支援教育調査官 菅野和彦様、御来賓としてお越しいただいた皆様、分科会でご助言をいただく先生方並びに、各関係機関の皆様の日頃からの御支援と御指導の賜物です。また、旭川市旭山動物園統括園長である坂東元氏をお迎えし、「伝えるのはいのち 繋ぐのはいのち」と題した記念講演をいただきます。動物たちの「いのち」と向き合い続けてこられた坂東氏のご講演は、私たちが日々向き合う子どもたちの「いのち」と重なり合い、教育の本質を改めて問い直す貴重な機会となることでしょう。

北海道の雄大な自然と温かい人々に囲まれたこの地で、参加された皆様と共に学び、語り合えることを大変嬉しく思います。本大会が、参加者の皆様にとって有意義な時間となり、今後の各学校での教育実践に活かされることを心より願っております。

最後に、本大会の開催にあたりご尽力いただいた実行委員長の北海道真駒内養護学校の高木美穂校長先生をはじめ、北海道特別支援学校肢体不自由・病弱校長会の校長先生方、事務局を担っていただいている先生方に感謝を申し上げ、挨拶とさせていただきます。



## 挨拶

全国肢体不自由教育研究協議会北海道大会実行委員長  
北海道真駒内養護学校長

高木美穂

この度、雄大な大雪山連峰に抱かれた自然豊かな旭川の地におきまして、「第71回全国肢体不自由教育研究協議会北海道大会」並びに「第62回北海道肢体不自由教育研究大会旭川大会」を開催できますこと、道内関係者一同、大きな喜びとともに、全国各地よりお集まりいただきました皆様に心より感謝申し上げます。

本大会の開催にあたり、多大なるご指導とご支援を賜りました文部科学省初等中等教育局視学官（併）特別支援教育課特別支援教育調査官 菅野和彦様、北海道教育委員会教育長 中島俊明様をはじめ、関係機関の皆様には厚く御礼申し上げます。

さて、本大会は、昨年度、コロナ禍を経て5年ぶりに参集形式で開催された熊本大会から確かなバトンを受け継ぎ、大会主題を「**肢体不自由教育の充実をととした共生社会形成の推進～ウエルビーイングの向上をめざした子ども主体の学びの充実～**」といたしました。副題に掲げた「ウエルビーイング」は、令和5年6月に閣議決定された「第4期教育振興基本計画」の重要なコンセプトの一つです。多様な個人がそれぞれに幸せや生きがいを感じ、さらに地域や社会全体が豊かさを実感できるような共生社会の実現に向け、教育が果たす役割は極めて大きいと認識しております。

このような時代において、全国の肢体不自由教育に携わる関係者が一堂に会し、子どもたちのウエルビーイング向上を目指し、日々の実践と研究の成果を持ち寄り、深く議論を交わすことは、誠に意義深いことです。本大会が、全国からの先進的な実践事例を共有し、明日からの教育実践を一層充実させるための貴重な学びの場となることを確信しております。

特に、北海道旭川養護学校での公開授業は、肢体不自由教育における「子ども主体の学び」がどのように具体的に展開されているかを、直接ご覧いただける貴重な機会です。実践の現場から生まれる課題や創意工夫を肌で感じていただき、ご参加の皆様の議論がより一層深まる一助となれば幸いです。また、多岐にわたるテーマで開催される分科会では、全国各地からの示唆に富む実践報告や、それぞれの分野の専門家によるご助言が予定されており、皆様の専門性やご関心に応じて、実り多い学びを得ていただけることと存じます。

結びとなりますが、本大会の開催にご尽力いただきました関係者の皆様、そして、講演や分科会などにご指導、ご助言を賜ります皆様、さらに、貴重な実践報告をご提供いただきます会員の皆様へ心より感謝申し上げます。この二日間は、全国の肢体不自由教育のさらなる発展に繋がる実り多き時間となることを心から願いつつ、北海道大会の成功と本研究協議会の益々の充実・発展を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

# 会 場 一 覧

日	時 間	項 目	会 場	
19 日 (水)	9:00- 9:30	受付	北海道旭川養護学校	
	9:50-11:20	学校公開 part I		
	12:30-13:00	代表校長受付	【2F ライラック】	
	13:00-13:45	代表者研究協議会		
	13:30-14:00	校長会受付	【2F ザ・ウエストルーム】	
	14:00-16:00	校長会・全体研究協議会		
	16:10-17:00	分科会運営打ち合わせ	【2F ザ・イーストルーム】	
	13:00-17:00	来賓 控室	【4F 平安・桃山】	
	13:00-17:00	役員 控室	【4F 大和・弥生】	
20 日 (木)	9:00- 9:30	受付	北海道旭川養護学校	
	9:50-11:20	学校公開 part II		
	12:00-13:15	全 体 会	受付 昼食・休憩	【3F ボールルーム】
	13:15-13:45		大会開会式	
	13:50-14:50		文部科学省 講話	
	14:50-15:05		休 憩	
	15:05-17:15	分 科 会	1 授業改善	【2F ザ・ウエストルーム】
			2 学習指導 I	【2F アザレア】
			3 学習指導 II	【4F ビズルーム II】
			4 学習指導 III	【2F ザ・イーストルーム】
			5 自立活動	【2F ライラック】
			6 健康教育	【2F ローアン】
			7 情報教育・支援機器の活用	【4F ビズルーム I】
			8 生活指導・寄宿舎教育	【2F コスモス】
			9 キャリア教育及び進路指導	【2F パンジー】
			10 地域との連携	【3F ハマナス】
全 日	来賓控室	【4F 平安・桃山】		
	役員控室／助言者控室	【4F 大和・弥生】		
	事務局控室	【3F ボードルーム II】		
21 日 (金)	8:50- 9:10	受付	【3F ボールルーム】	
	9:10-10:15	記念講演		
	10:25-11:25	ポスター発表	【2F ザ・ウエストルーム】	
	11:35-11:45	プレゼンカップ情報	【3F ボールルーム】	
	11:45-12:15	講評 閉会式		
	13:30-14:30	学校公開 part III	北海道旭川養護学校	
	全 日	来賓控室	【4F 平安・桃山】	
役員控室		【4F 大和・弥生】		
事務局控室		【4F ボードルーム II】		

# 会場図

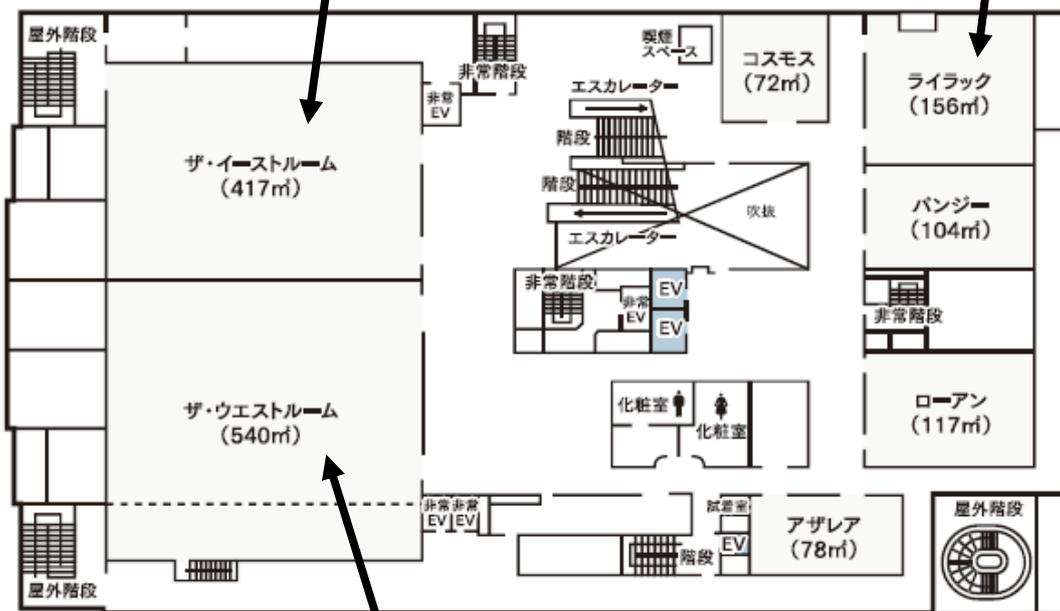
アートホテル旭川

第1日 11月19日(水)

2F

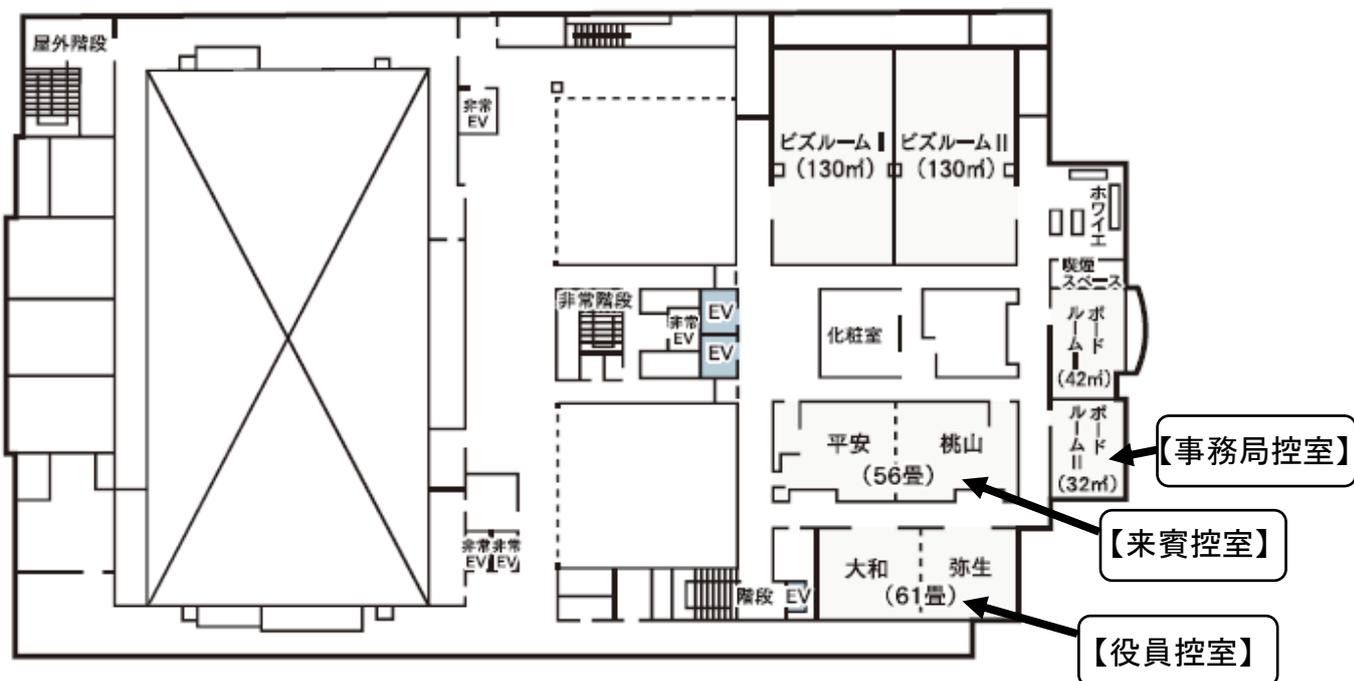
【分科会運営打ち合わせ】  
16:10~17:00

【代表者研究協議会】  
13:00~13:45



4F

【校長会・全体研究協議会】  
14:00~16:00



# 会場図

アートホテル旭川

第2日 11月20日(木)

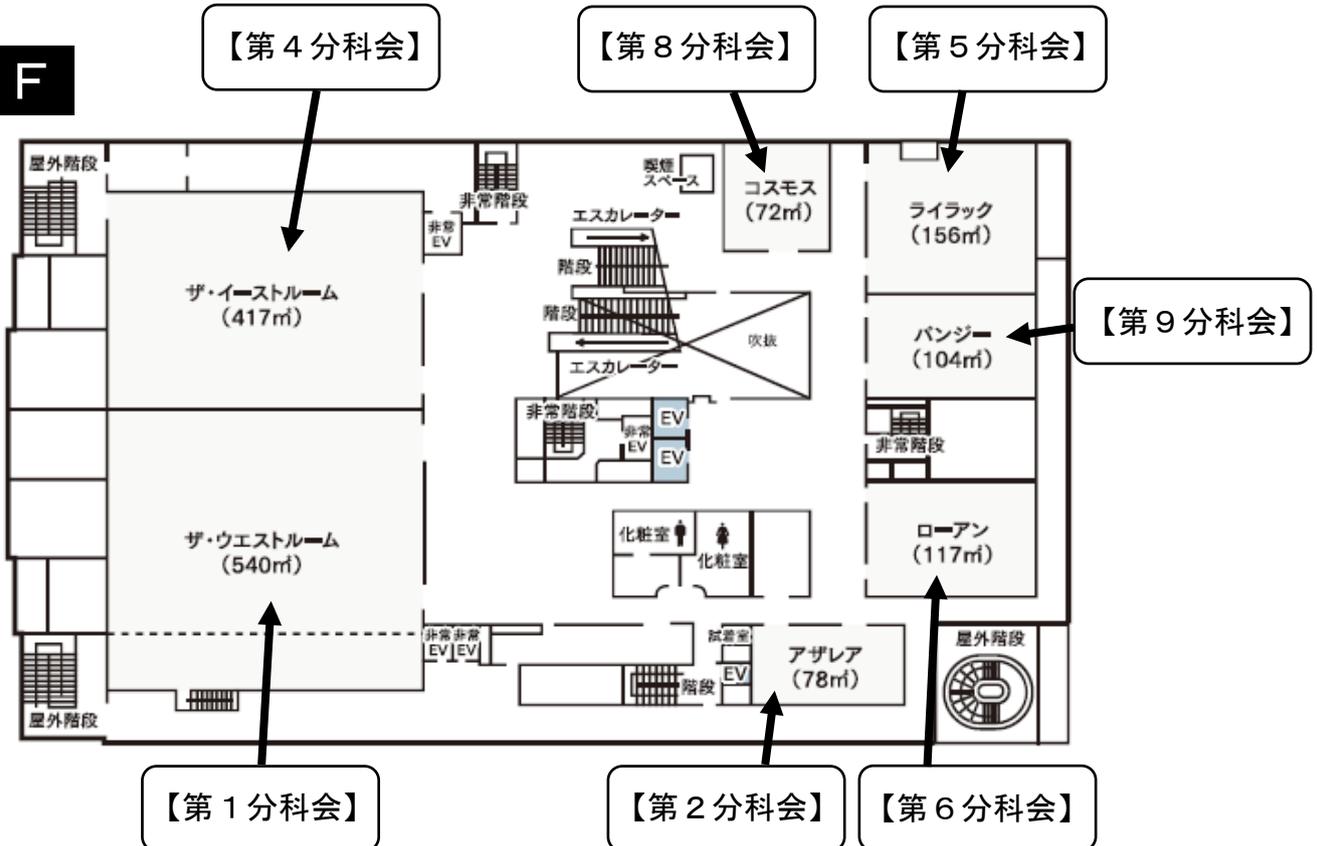
全体会

13:15~14:50

分科会

15:05~17:15

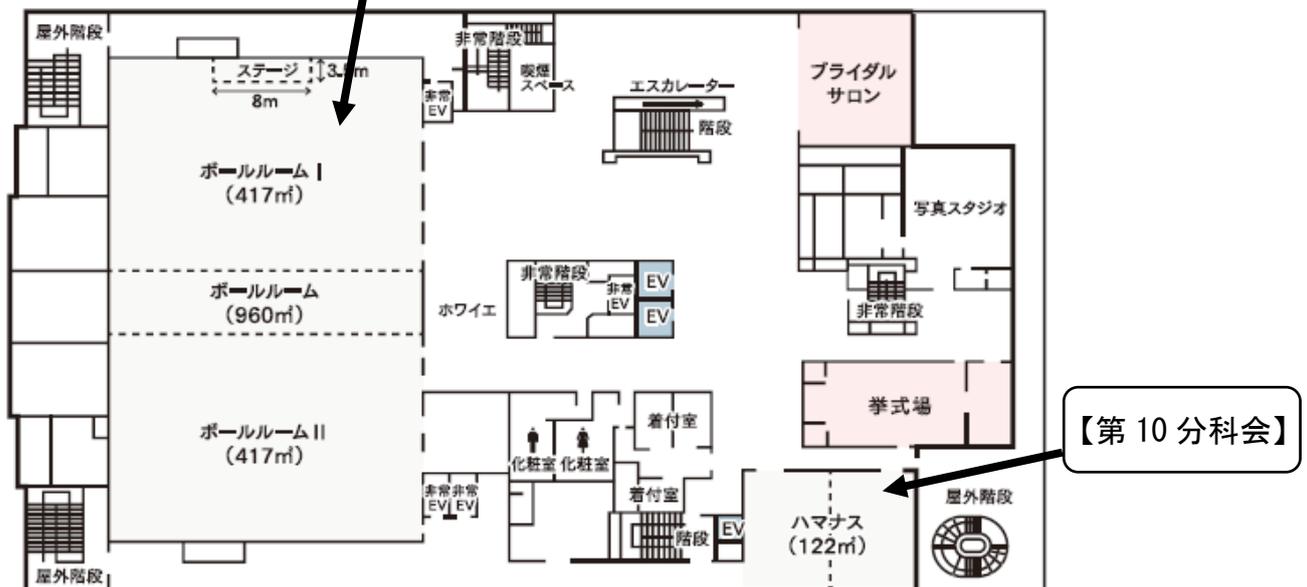
**2F**



**3F**

【全体会】開会式・文部科学省講話

13:15~14:50



# 会場図

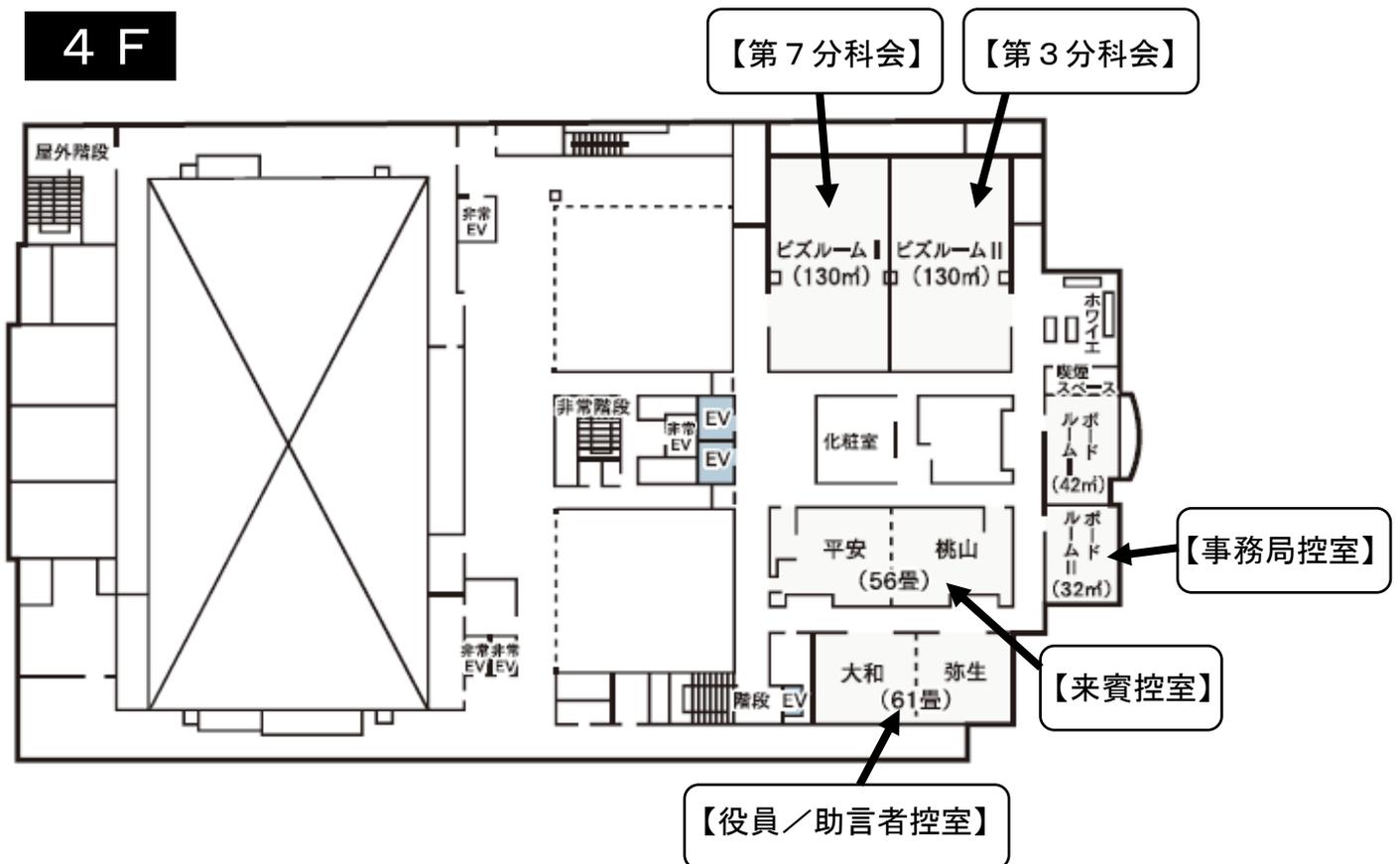
アートホテル旭川

第2日 11月20日(木)

分科会

15:05~17:15

4F

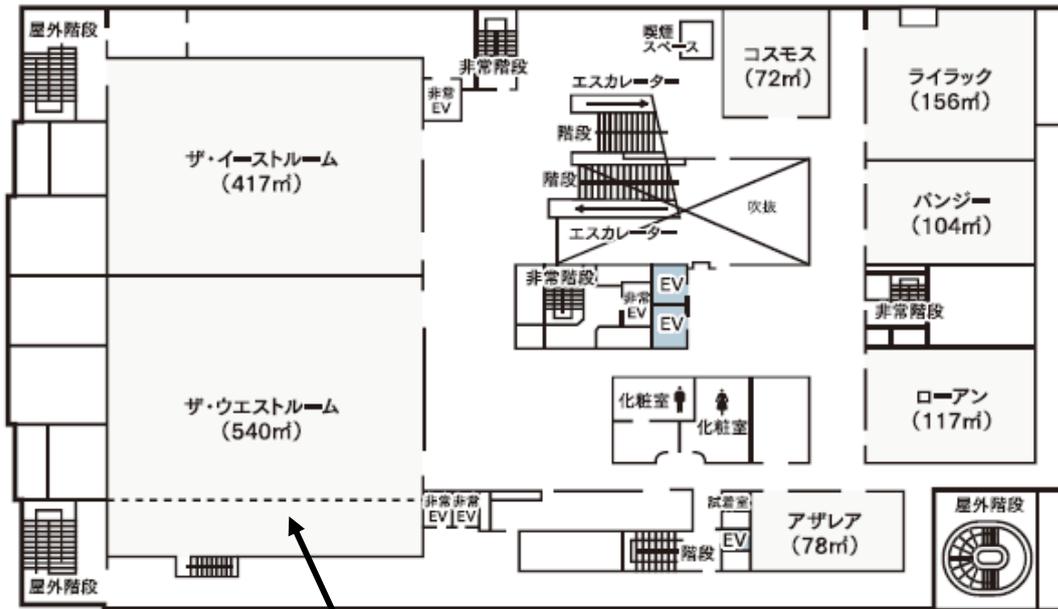


# 会場図

アートホテル旭川

第3日 11月21日(金)

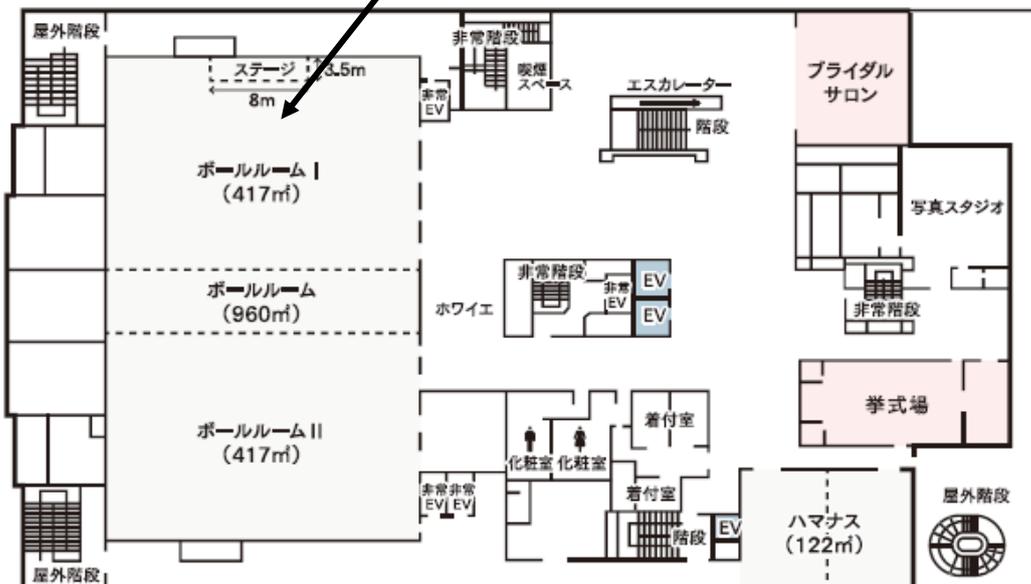
2F



【ポスター発表】  
10:25~11:25

3F

【記念講演】 9:10~10:15      【プレゼンカップ情報】 11:35~11:45      【閉会式】 11:45~12:15

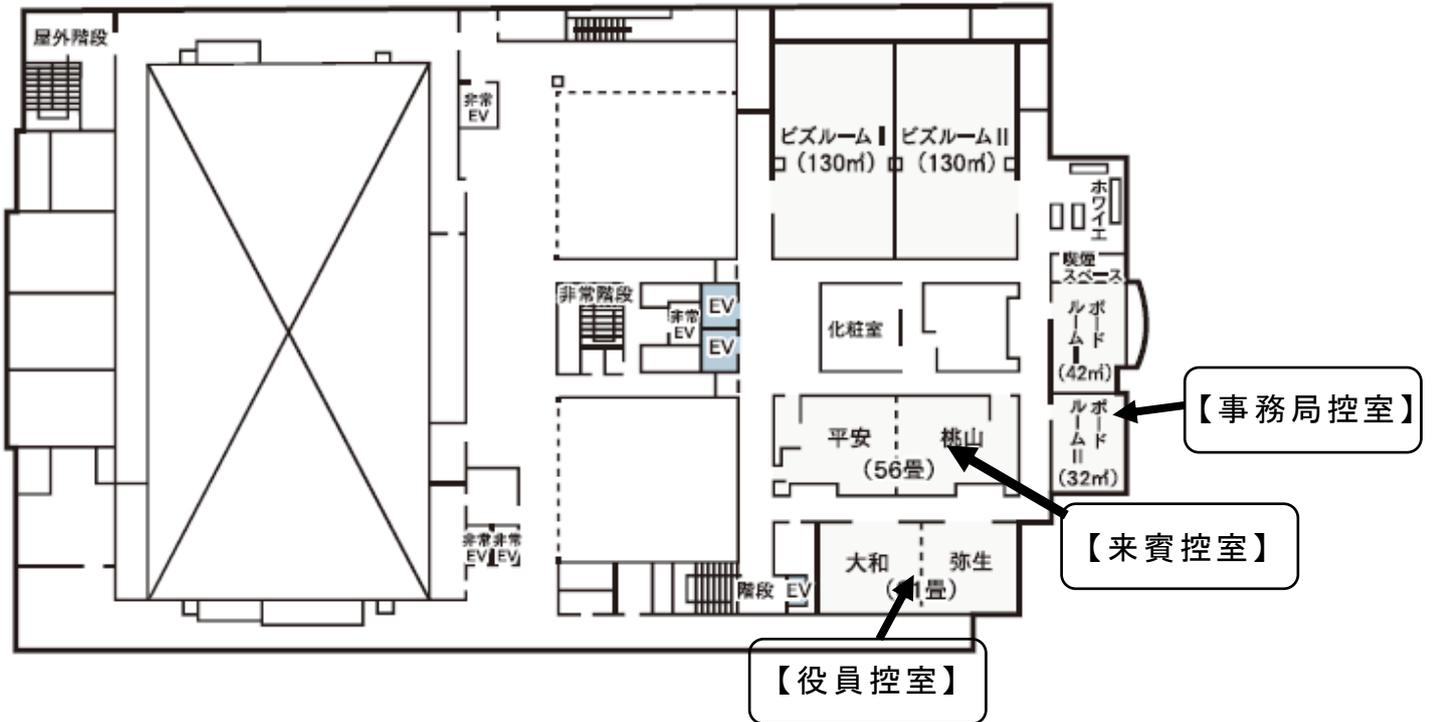


# 会場図

アートホテル旭川

第3日 11月21日(金)

4F

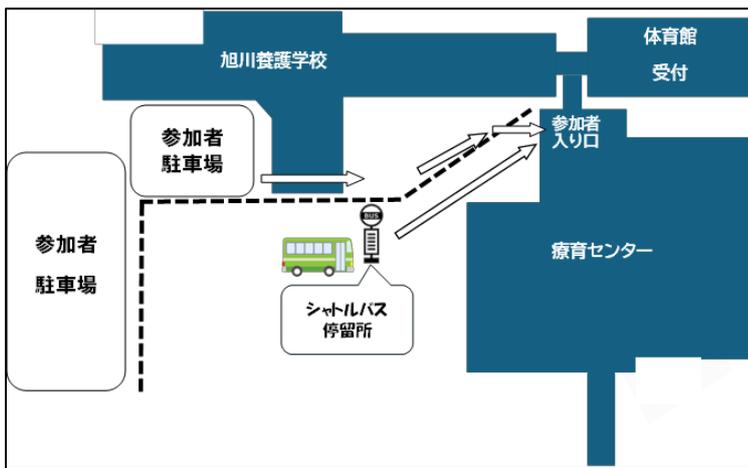


# 会場図

## 学校公開 会場

11月19日（水）～21日（金）

《北海道旭川養護学校》 学校公開 part I 9:50～11:20 学校公開 part II 9:50～11:20 学校公開 part III 13:30～14:30



### 拡大図



- JR 旭川駅からお越しの場合  
JR 旭川駅から道北バスに乗車  
JR 旭川駅(3番乗り場)→療育センター前  
28, 29 番 春光台循環線  
30 番 春光台線  
34 番 10 線 10 号線

※やむを得ない理由を除き、交通渋滞緩和のためシャトルバスをご利用ください。



# 第1日 11月19日(水)

校長会・全体研究協議会  
分科会運営打合せ

## < 学校公開 part I >

時 間 9:50～11:20 (受付 9:00～9:30)  
会 場 北海道旭川養護学校

\*\*\*\*\*

## < 代表者研究協議会 >

(全肢長各地区会長・理事・評議員・監事・事務局理事)

時 間 13:00～13:45  
会 場 アートホテル旭川【2F ライラック】

\*\*\*\*\*

## < 校長会・全体研究協議会 >

時 間 14:00～16:00  
会 場 アートホテル旭川【2F ザ・ウエストルーム】

### ◆提 案 1

( 休 憩 )

### ◆提 案 2

### ◆指導助言及び講評

文部科学省初等中等教育局 視学官  
(併) 特別支援教育課 特別支援教育調査官

菅 野 和 彦

## < 分科会運営打合せ >

時 間 16:10～17:00

会 場 アートホテル旭川【2F ザ・イーストルーム】

【進 行】 各分科会運営責任者

第1分科会：授業改善

第2分科会：学習指導Ⅰ（準ずる教育課程）

第3分科会：学習指導Ⅱ（知的代替の教育課程）

第4分科会：学習指導Ⅲ（自立活動を主とする教育課程）

第5分科会：自立活動

第6分科会：健康教育

第7分科会：情報教育・支援機器の活用

第8分科会：生活指導・寄宿舎教育

第9分科会：キャリア教育及び進路指導

第10分科会：地域との連携

### 1 分科会打合せ

- (1) 自己紹介
- (2) 分科会提案の概要について
- (3) 分科会の研究協議「協議の柱」について
- (4) 運営について(タイムスケジュールなど)
- (5) その他

### 2 視聴覚機器の確認

- 司会者、提案者、助言者
- 各分科会運営担当者、記録者、機器担当者

### < 学校公開 part II >

時 間 9:50~11:20 (受付 9:00~9:30)

会 場 北海道旭川養護学校

### < 開会式 >

受 付 12:00~13:15

時 間 13:15~13:45

会 場 アートホテル旭川【3F ボールルーム】

【進 行】 北海道大会実行委員 市立札幌豊成支援学校長 宗 石 健太郎

- 1 開 式 北海道大会副実行委員長  
北海道旭川養護学校長 佐々木 建
  
- 2 挨拶 北海道大会会長 (全国特別支援学校肢体不自由教育校長会会長)  
東京都立光明学園統括校長 島 添 聡  
  
北海道大会実行委員長  
北海道真駒内養護学校長 高 木 美 穂
  
- 3 祝 辞 文部科学省初等中等教育局 視学官  
(併) 特別支援教育課特別支援教育調査官 菅 野 和 彦  
  
北海道教育委員会教育長 中 島 俊 明
  
- 4 来賓紹介 北海道大会実行委員長  
北海道真駒内養護学校長 高 木 美 穂
  
- 5 閉 式 北海道大会副実行委員長  
北海道旭川養護学校長 佐々木 建

## < 文部科学省講話 >

時 間 11月20日(木) 13:50~14:50

会 場 アートホテル旭川

【進 行】 北海道大会事務局員 北海道真駒内養護学校 副校長 篠 田 佳 寿

1 講師紹介 北海道大会実行委員 北海道函館養護学校長 増 田 望

2 演 題 「特別支援教育の動向と肢体不自由教育への期待」  
～ 授業づくりと子供の学びを中心に ～

3 講 師 文部科学省初等中等教育局 視学官  
(併) 特別支援教育課 特別支援教育調査官 菅 野 和 彦

4 謝 辞 北海道大会実行委員 北海道函館養護学校長 増 田 望

### 【 菅野 和彦 (かんの かずひこ) 先生 プロフィール 】

#### 《略 歴》

平成 10 年	4 月	福島県立平支援学校 教諭 (肢体不自由)
平成 15 年	4 月	福島大学附属特別支援学校 文部科学教官 (知的障害)
平成 19 年	4 月	福島県立平支援学校 教諭 (肢体不自由)
平成 24 年	4 月	福島県特別支援教育センター 指導主事
平成 28 年	4 月	福島県教育庁いわき教育事務所 学校教育課 指導主事
平成 30 年	4 月	文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 (兼) 独立行政法人大学入試センター新テスト特任研究官
令和 3 年	4 月	文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 (命) インクルーシブ教育システム連絡調整担当
令和 4 年	4 月	文部科学省初等中等教育局 視学官 (併) 特別支援教育課 特別支援教育調査官



#### 《主な著書・執筆》

- ・「よくわかる肢体不自由教育 第2版」分担執筆 ミネルヴァ書房
- ・「肢体不自由のある児童生徒のための授業を究める」監修執筆 ジアース教育新社
- ・「年間指導計画システムの理念と実践 知的障害教育スタンダード」  
分担執筆 ジアース教育新社
- ・季刊「特別支援教育」
- ・初等教育資料 他

## 第1分科会 授業改善

会 場	アートホテル旭川 ビズルーム I (4F)	
分科会の観点	学校で開発した授業研究の実践紹介やその成果の共有をとおして、各学校の授業改善を図る。	
提 案	提案者 テーマ	横浜市立北綱島特別支援学校 教諭 高野 海 一人ひとりの可能性を見出す授業づくり～一人ひとりの個性や課題に寄り添い、個別最適な学びを目指した授業実践～
	提案者 テーマ	京都市立呉竹総合支援学校 教諭 中林 典子 ウェルビーイングな学校を目指して ～主体的な授業研究とポジティブアプローチによる授業実践～
司 会	北海道真駒内養護学校 副校長 篠田 佳寿	
助 言	筑波大学・上野学園短期大学非常勤講師 元文部科学省特別支援教育調査官 下山 直人 様	
運 営	北海道真駒内養護学校 甲斐 洋二郎	
記 録	北海道真駒内養護学校 新海 真由美	
機 器	北海道真駒内養護学校 北川 衆一	

## 第2分科会 学習指導 I (準ずる教育課程)

会 場	アートホテル旭川 アザレア (2F)	
分科会の観点	個別の指導計画や授業計画、授業の工夫の実践紹介をとおして、準ずる教育課程(訪問教育含)の教科について、学習指導の充実を図る。	
提 案	提案者 テーマ	長崎県立諫早東特別支援学校 教諭 小原 基子 めざす児童生徒像の実現に向けた取組 ～個別最適な学びと協働的な学びの実践を通して～
	提案者 テーマ	鹿児島県立鹿児島南特別支援学校 教諭 折田 美紀子 自己実現を目指した学習の展開と今後の取組について ～ICT機器の利活用を通して～
司 会	石川県立いしかわ特別支援学校 教頭 畑澤 薫	
助 言	北翔大学 非常勤講師 松井 由紀夫 様	
運 営	北海道拓北養護学校 元木 祐子	
記 録	北海道拓北養護学校 柳橋 圭介	
機 器	北海道拓北養護学校 石谷 優樹	

### 第3分科会 学習指導Ⅱ(知的代替の教育課程)

会場	アートホテル旭川 ビズルームⅡ (4F)	
分科会の観点	個別の指導計画や授業計画、授業の工夫の実践紹介をとおして、知的代替の教育課程(訪問教育含)の領域・教科等について、学習指導の充実を図る。	
提案	提案者	東京都立村山特別支援学校 校長 阿部 智子 指導教諭 山下 さつき
	テーマ	主体的に考える力につながる生活科の授業づくり ～文部科学省著作教科書☆本を活用して～
	提案者	高知県立高知若草特別支援学校子鹿園分校 教諭 中島 久美
	テーマ	「自分から表現する子」の実現に向けた授業実践 ～音楽科の取り組み～
司会	山形県立ゆきわり養護学校 教諭 柴田 雄一郎	
助言	北翔大学 教授 野戸谷 睦 様	
運営	北海道旭川養護学校 白井 紀美子	
記録	北海道旭川養護学校 新保 博 嗣	
機器	北海道旭川養護学校 笹谷 吾 郎	

### 第4分科会 学習指導Ⅲ(自立活動を主とする教育課程)

会場	アートホテル旭川 ザ・ウエストルーム (2F)	
分科会の観点	個別の指導計画や授業計画、授業の工夫の実践紹介をとおして、自立活動を主とする教育課程(訪問教育含)の学習指導の充実を図る。	
提案	提案者	富山県立高志支援学校 教諭 田辺 悠季
	テーマ	子供の学びの充実に向けた自立活動と各教科等の指導の関連について
	提案者	奈良県立明日香養護学校 教諭 赤井 伸充
	テーマ	覚醒が低い児童の応答・発信力を育む自立活動の指導の充実
司会	静岡県立静岡南部特別支援学校 教諭 小澤 彰子	
助言	北海道立特別支援教育センター 所長 柏木 拓也 様	
運営	北海道函館養護学校 嶺岸 美幸	
記録	北海道函館養護学校 村瀬 健太	
機器	北海道旭川養護学校 佐々木 雅充	

## 第5分科会 自立活動

会 場	アートホテル旭川 ザ・イーストルーム（2F）	
分科会の観点	教育課程、指導計画及び外部専門家との連携を含め、自立活動の時間の指導や教育活動全体を通じて行う指導の実践紹介をとおして、各学校の指導等の専門性向上を図る。	
提 案	提案者	和歌山県立紀北支援学校 教 諭 中 村 知 樹
	テーマ	肢体不自由児童の思いをつなぎ、自己効力感と運動習慣を高める自立活動の実践研究～家庭・学校の連続性を通じて～
	提案者	沖縄県立鏡が丘特別支援学校 教 諭 東 江 卓 矢
	テーマ	自立活動の指導における児童生徒の課題解決に向けた取り組み～外部専門家の活用を通して～
司 会	東京都立村山特別支援学校	主任教諭 齋 藤 亮
助 言	国立特別支援教育総合研究所 研修事業部 上席総括研究員（兼）部長 吉 川 知 夫 様	
運 営	北海道網走養護学校	古 市 悦 子
記 録	北海道旭川養護学校	外 山 昇
機 器	北海道旭川養護学校	赤 川 殉

## 第6分科会 健康教育

会 場	アートホテル旭川 ローアン（2F）	
分科会の観点	医療的ケア及び食育を含め、健康教育推進にかかわる取組や実践紹介をとおして、指導等の専門性向上を図る。	
提 案	提案者	北海道真駒内養護学校 自立活動教諭 皆 川 悦 子
	テーマ	北海道立特別支援学校における摂食指導について～北海道真駒内養護学校での取組および全道への給食指導支援～
	提案者	福岡市立南福岡特別支援学校 教 諭 花 木 梨 恵
	テーマ	生活の質に配慮した医療的ケアの取り組み～給食のペースト食注入（試行）を通して～
司 会	香川県立高松支援学校	教 諭 泉 本 尚 資
助 言	医療法人稲生会	理事長 土 嶋 智 幸 様
運 営	市立札幌北翔支援学校	西 村 友 香
記 録	市立札幌北翔支援学校	中 禰 真 介
機 器	北海道旭川養護学校	岡 田 融

## 第7分科会 情報教育・支援機器の活用

会 場	アートホテル旭川 ライラック (2F)	
分科会の観点	効果的な情報教育の授業実践、自立と社会参加につながる支援機器活用の実践紹介をとおして、各学校の授業改善を図る。	
提 案	提案者	福島県立郡山支援学校 教 諭 駒木根 亮 佑
	テーマ	D Xハイスクール事業を活用した肢体不自由教育における取り組み ～メタバースにおけるワールド作成を通して～
	提案者	三重県立度会特別支援学校 教 諭 川 井 沙 帆
	テーマ	視線入力装置 TD パイロットで実現する主体的な学びと達成感の支援
司 会	市立札幌豊成支援学校 教 諭 三木田 和 基	
助 言	国立特別支援教育総合研究所 情報・支援部主任研究員 織 田 晃 嘉 様	
運 営	市立札幌豊成支援学校 沓 澤 みか子	
記 録	北海道旭川養護学校 岡 野 おりえ	
機 器	北海道旭川養護学校 加 藤 優	

## 第8分科会 生活指導・寄宿舎教育

会 場	アートホテル旭川 コスモス (2F)	
分科会の観点	寄宿舎教育の指導実践を含め、肢体不自由校全般の生活指導実践の紹介をとおして、学習指導以外の指導面を補完し、生活指導の充実を図る。	
提 案	提案者	島根県立松江清心養護学校 養護教諭 坂 上 優 香
	テーマ	児童生徒の「学び」と「生活」を支える取組 ～チーム保健室の実践～
	提案者	宮崎県立延岡しろやま支援学校 寄宿舎指導員 長 島 一 也
	テーマ	主体的に社会で生き抜く力の育成を目指した支援の工夫 ～将来の実生活を見据えた生活支援の工夫～
司 会	熊本県立松橋支援学校 教 諭 早 水 一 晃	
助 言	北海道教育大学釧路校 教 授 小野川 文 子 様	
運 営	北海道旭川養護学校 北 本 薫	
記 録	北海道旭川養護学校 角 田 美 香	
機 器	北海道旭川養護学校 鈴 木 幸 貴	

## 第9分科会 キャリア教育及び進路指導

会 場	アートホテル旭川 パンジー（2F）	
分科会の観点	キャリア教育及びキャリア形成を踏まえた進路指導の視点の共有をとおして、各学校の指導の充実を図る。	
提 案	提案者	宮城県立船岡支援学校 教 諭 武 田 幸 司
	テーマ	肢体不自由支援学校における進路支援の「今日まで、そして明日から」～13年間の経験から～
	提案者	筑波大学附属桐が丘特別支援学校 教 諭 高 橋 佳 菜 子
	テーマ	肢体不自由生徒のキャリア発達を促す学校設定教科の試み
司 会	埼玉県立宮代特別支援学校 教 諭 都 築 直 紀	
助 言	特定非営利法人カムイ大雪バリアフリー研究所 代表理事 五十嵐 真 幸 様	
運 営	北海道旭川養護学校 藤 本 哲 生	
記 録	北海道旭川養護学校 角 桃 子	
機 器	北海道旭川養護学校 菅 原 春 菜	

## 第10分科会 地域との連携

会 場	アートホテル旭川 ハマナス（3F）	
分科会の観点	地域という視点からの支援機能の発揮や小・中学校等と進める交流及び共同学習の工夫、個別の教育支援計画の活用等の共有をとおして、各学校の機能向上を図る。	
提 案	提案者	青森県立弘前第二養護学校 教 諭 佐 野 佳 奈 恵
	テーマ	地域との交流及び共同学習～私たちを知ってもらおう～
	提案者	山口県立周南総合支援学校 教 諭 宮 本 慎 太 郎
	テーマ	『つながり』を広げる学びと未来 ～四者連携による共生社会の実現に向けて～
司 会	京都市立呉竹総合支援学校 教 頭 木 邑 佳 織	
助 言	横浜国立大学 教 授 徳 永 亜 希 雄 様	
運 営	北海道旭川養護学校 駒ヶ嶺 り ほ	
記 録	北海道旭川養護学校 岡 奈 央 美	
機 器	北海道旭川養護学校 小野寺 崇	

# 第3日 11月21日(金)

記念講演・ポスター発表・  
プレゼンカップ情報・閉会式

## < 記念講演 >

時 間 令和7年11月21日(金) 9:10~10:15

会 場 アートホテル旭川 【3F ボールルーム】

【進 行】 北海道大会事務局員 北海道真駒内養護学校 副校長 篠 田 佳 寿

1 講師紹介 北海道大会実行委員 北海道網走養護学校長 鴻 江 康 人

2 演 題 「伝えるのはいのち 繋ぐのはいのち」

3 講 師 旭川市旭山動物園 統括園長 坂 東 元

4 謝 辞 北海道大会実行委員 北海道網走養護学校長 鴻 江 康 人

## 【坂東 元 (ばんどう げん) 氏 プロフィール】

### < 略歴 >

1961年 旭川市生まれ  
酪農学園大学酪農学部獣医学修士課程修了  
1986年 獣医師として旭山動物園勤務  
1995年 旭山動物園 飼育展示係長  
2004年 旭山動物園 副園長  
2009年 旭山動物園 園長  
2024年 現職 旭山動物園 統括園長・獣医師  
ボルネオ保全トラストジャパン 理事



写真：旭川市旭山動物園ホームページより

### < 主な著作・テレビ番組等 >

「動物と向き合って生きる」(角川学芸出版)  
「夢の動物園—旭山動物園の明日」(角川学芸出版)  
「ヒトと生き物 ひとつながりのいのち」(道友社)  
「奇跡の動物園～旭山動物園物語～」(フジテレビ) 等

### < 旭川市旭山動物園 >

マリンウエイ(円柱水槽)や大水槽で自由に泳ぐアザラシやペンギンの姿が観察できる「あざらし館」や「ペンギン館」をはじめ、動物たちがもつ本来のありのままの姿が見られる展示方法(行動展示)で、動物たちの素晴らしい魅力を伝えている。

# ポスター発表一覧表

分科会	掲載頁	演 題	学 校 名	演 者		発 番
1 授業改善	1	生活単元学習 作物栽培の取り組みについて ～野菜の収穫を通して～	北海道函館養護学校	教諭	村瀬 健太	1-1
	2	「児童生徒が自ら思考する」授業づくり・授業 改善～授業づくりパッケージを活用した取り組み～	石川県立 いしかわ特別支援学校	教諭	坂元 彩華	1-2
	3	本校の学習内容確認表を活用した授業改善 ～過年度学習内容からのブラッシュアップ～	山形県立 ゆきわり養護学校	教諭	開沼 雅敏	1-3
	4	小学部における音楽的な見方・考え方を働かせる 授業	東京都立 村山特別支援学校	教諭	富川 裕基	1-4
				主任 教諭	齋藤 亮	
	5	本校の授業改善の実践について	広島県立 福山特別支援学校	教諭	石神 諒子	1-5
6	「個人のねがいシート」を活用した授業改善の 取組	佐賀県立 唐津特別支援学校	教諭	平原 千奈未	1-6	
			教諭	福山 祐香		
2 (準ずる教育課程) 学習指導Ⅰ	7	児童精神科の病院訪問学級における自立活動 の検討	東京都立 八王子東特別支援学校	教諭	井出 春華	2-1
3 (知的代替の教育課程) 学習指導Ⅱ	8	将来につなげる総合的な学習の時間 ～興味を育てる授業作り～	北海道手稲養護学校	教諭	川口 陽子	3-1
	9	視知覚の困難さを有する脳性麻痺生徒における 個別課題学習の過程～筋運動感覚フィード バックが明確な感覚教材に着目をして～	東京都立 多摩桜の丘学園	教諭	宮本 萌	3-2
				主幹 教諭	松本 健太郎	
10	まなびが動き出す、その瞬間をつくる ～教科学習×自立活動的な視点で豊かな学び へ～	西宮市立 西宮支援学校	教諭	赤塚 裕考	3-3	
4 (自立活動を主とする教育課程) 学習指導Ⅲ	11	多職種の繋がり、教科との繋がりから生まれる 学校全体に笑顔があふれる自立活動を目指して ～校内研究の取り組みを通して～	市立札幌豊成支援学校	教諭	三木田 和基	4-1
	12	自立活動を主とする教育課程における「算数」 「数学」の授業づくりⅠ ～学習指導要領に基づくねらいを焦点化した 授業の工夫～	東京都立 村山特別支援学校	主任 教諭	武山 聡子	4-2
	13	デジタルリハビリツール「デジリハ」を活用した 教育分野への実装に向けた経過報告 ～算数を楽しく学習し、定着するための支援ツ ール～	明石市立明石養護学校	理学 療法士	森田 捷平	4-3
教諭				木庭 照美		

分科会	掲載頁	演 題	学 校 名	演 者		発 番
4 学習指導Ⅲ (自立活動を主とする教育課程)	14	教科学習の土台となる授業実践 ～単元活動の指導「アサガオを育てよう」を通して～	愛媛県立 新居浜特別支援学校 川西分校	教諭	真部 颯人	4-4
	15	自立活動の指導を各教科等につなげるための実践 ～スポーツ単元を通して～	熊本県立 苓北支援学校	教諭	古川 伊久磨	4-5
	16	自立活動の個別の指導計画の作成と指導の実際	岩手県立 盛岡となん支援学校	教諭	齊藤 香子	4-6
	17	自己選択・意思決定する力を高める個別学習の 取組～伝わる経験、伝えたい気持ち～	神奈川県立 あおば支援学校	教諭	橋本 玲	4-7
	18	「かたち」の学習における多感覚的アプローチ について	東京都立志村学園	主任 教諭	佐々木 香瑠	4-8
	19	社会で豊かに生きる力を育むための学び ～教科学習の確実で系統的な学びと積み上げ～	三重県立 城山特別支援学校	教諭	奥西 織恵	4-9
5 自立活動	20	障害の重い児童生徒の自立活動 ～実態把握図と課題関連図に基づく目標設定と 授業実践～	北海道網走養護学校	教諭	水野 遥	5-1
	21	子どもの内発的動機付けを促し、主体性を引き 出すための実践 ～スノーブレンをきっかけにして～	埼玉県立 越谷特別支援学校	主幹 教諭	矢吹 紀子	5-2
	22	脳性麻痺者に対する長期的な歩行練習が咀嚼お よび構音機能に及ぼす影響：一症例報告	埼玉県立 川島ひばりが丘特別 支援学校	教諭	西山 保夫	5-3
	23	「自立活動の時間における指導」と学校の教育 活動全体を通じて行う「自立活動の指導」の関 連～教職員アンケートの分析を活用した改善Ⅰ～	東京都立 村山特別支援学校	指導 教諭	山下 さつき	5-4
	24	医療的ケア児の自立活動の指導の充実について	富山県立 富山総合支援学校	教諭	柳原 翠	5-5
	25	障害が重い生徒とコミュニケーションを通じた 実践～活動の手順と空間の構造化で見通しをも つ～	長野県 稲荷山養護学校	教諭	齋藤 圭一朗	5-6
	26	2025 大阪関西万博会場と学校を結んだアバタ ーを活用した遠隔案内体験	大阪府立 堺支援学校	校長	藤井 雅乗	5-7
	27	チームで創る自立活動の指導	岡山県立 岡山支援学校	教諭	乗金 大輔	5-8

分科会	掲載頁	演 題	学 校 名	演 者		発 番
5 自立活動	28	児童が外界へ働きかける活動を目指して	青森県立 八戸第一養護学校	教諭	高村 一也	5-9
	29	自立活動の指導の充実を目指した「学級サポート」の取り組みについて	宮崎県立 清武せいらゆう支援学校	教諭	鈴木 優乃	5-10
6 健康教育	30	食べることは楽しい ～栄養教諭と共に検討しながらすすめる摂食指導～	奈良県立 奈良養護学校	栄養 教諭	河崎 知子	6-1
	31	小学部修学旅行の取組について～医療的ケアが必要な生徒への工夫や配慮～	大阪府立 交野支援学校	教諭	近藤 宏樹	6-2
	32	人工呼吸器を使用する児童の健康教育について ～心身の健康をめざして～	岡山県立 倉敷まきび支援学校	教諭	宮崎 聖子	6-3
7 情報教育・支援機器の活用	33	準ずる教育課程を選択する児童の個人思考を支える ICT 機器と支援機器の活用 ～複式学級における指導の実践と課題～	北海道拓北養護学校	教諭	三上 柚	7-1
				教諭	佐伯 充基	
	34	児童生徒の学習効果を高める ICT 機器を活用した授業づくり ～個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けて～	北海道函館養護学校	教諭	川嶋 裕衣	7-2
	35	「ICT を有効活用した授業づくり」 ～学びを支え広げる ICT の活用や AT の視点を取り入れる授業づくり～	東京都立 小平特別支援学校	主任 教諭	高橋 一步	7-3
	36	アシスティブ・テクノロジーを活用した生徒の生きる力を高める取組-視線入力装置を活用した眼球運動の変化に着眼して-	大阪府立 交野支援学校	教諭	田中 紀行	7-4
				教諭	芝田 宗摩	
	37	東京都の ICT 教育環境を活用した指導の工夫～生成 AI と Microsoft Teams の活用について～	東京都立光明学園	主任 教諭	水野 吉丈	7-5
	38	全身性障害のある生徒における自己肯定感の醸成～生徒の意欲や「できる」を高める 場面に応じた ICT 活用～	東京都立 墨東特別支援学校	教諭	志賀 拓也	7-6
	39	視線入力装置を利用した授業実践 ～因果関係の理解と視野の広がりを目指して～	愛知県立 豊橋特別支援学校	教諭	山口 拓真	7-7
	40	タッチ式スイッチ等の支援機器を活用し、児童が主体的に外界と関わる取組～外部専門家との連携と姿勢作り、支援機器の調整を通して～	和歌山県立 紀伊コスモス支援学校	教諭	小杉 絵里奈	7-8
41	願いに向けて自ら切り拓いていけるように ～身近なアプリを活用して自立した生活ができるように～	岡山県立 西備支援学校	主幹 教諭	小野 浩	7-9	
42	特別支援学校における児童生徒の資質・能力を育む教員の指導力の更新 ～ICT を活用した授業づくりと校内体制整備を通して～	福岡県立 太宰府特別支援学校	主幹 教諭	吉田 雅子	7-10	

分科会	掲載頁	演 題	学 校 名	演 者		巻 番 号
8 生活指導・ 寄宿舎教育	43	寄宿舎という「小さな社会」での集団生活を通して、「自立」や「社会参加」に向けた実践的な力を育む取組	青森県立 青森第一高等養護学校	寄宿舎 指導員	篠崎 勉	8-1
9 キャリア教育及び 進路指導	44	若葉台モデル「自分づくりパスポート（キャリア・パスポート）」の作成および実践	横浜市立 若葉台特別支援学校	教諭	増島 大介	9-1
	45	重症心身障害がある児童生徒が卒業後安心して生活できるための取組～進路対策研究会重心特別部会の取組を通して～	横浜市立 左近山特別支援学校	教諭	高橋 雄太	9-2
	46	総合的な探究の時間「協働探究の取組」～島で暮らそう、宮古島～	東京都立光明学園	教諭	小野 雄大	9-3
	47	社会的自立をめざして～重度重複障がい児のキャリア教育の授業実践～	島根県立 江津清和養護学校	教諭	曾田 和子	9-4
	48	医療的ケアのある生徒の社会的自立とキャリア発達支援を志向した訪問教育の実際～スクーリング時における保護者付き添い段階表の活用～	大阪府立 茨木支援学校	教諭	吉田 飛鳥	9-5
	49	本校におけるキャリア教育の充実を目指して～年間活動計画の取り組みを通して～	沖縄県立 泡瀬特別支援学校	教諭	谷畑 学	9-6
10 地域との 連携	50	多様性を認め合う共生社会実現のための取組～スポーツチームとの交流会を通して～	埼玉県立 熊谷特別支援学校	教諭	近藤 直弥	10-1
	51	F-words を活用した個別の教育支援計画の構築と実践～視覚的共有と子ども主体の支援をめざして～	西宮市立 西宮支援学校	主幹 教諭	永戸 健史	10-2
	52	地域との連携～地域のニーズに応えた「つながり」の実践報告～	愛知県立 一宮特別支援学校	教諭 教諭	里中 清 増田 崇司	10-3

## < プレゼンカップ情報 >

時 間 11:35～11:45

会 場 アートホテル旭川【3F ボールルーム】

ミラコン 2025～未来を見通すコンテスト～  
第8回プレゼンカップ全国大会の御案内

ミラコン 2025 第8回プレゼンカップ全国大会実行委員会  
実行委員長 東京都立光明学園 統括校長

島 添 聡

## < 閉会式 >

時 間 11:45～12:15

会 場 アートホテル旭川【3F ボールルーム】

【進 行】 北海道大会実行委員 市立札幌北翔支援学校長

山 田 浩 富

1 開 式 北海道大会副実行委員長 北海道旭川養護学校長

佐々木 建

2 総 評 文部科学省初等中等教育局 視学官  
(併) 特別支援教育課特別支援教育調査官

菅 野 和 彦

3 挨 拶 北海道大会実行委員長 北海道真駒内養護学校長

高 木 美 穂

4 次期開催地区主管校挨拶 山梨県立甲府支援学校長

相 山 洋 幸

5 閉 式 北海道大会副実行委員長 北海道旭川養護学校長

佐々木 建

## < 学校公開 partⅢ >

時 間 13:30～14:30

会 場 北海道旭川養護学校

全国肢体不自由教育研究大会のあゆみ

主催 全国肢体不自由教育研究協議会，全国特別支援学校肢体不自由教育校長会

	大会名	開催地	開催期間
1	肢体不自由教育研究会	愛知県 愛知県立養護学校	昭和32年 6月14日
2	全国肢体不自由児養護学校研究協議会	大阪府 大阪府立養護学校	昭和32年 9月20日
3	全国肢体不自由児教育研究協議会	兵庫県 神戸市友生養護学校	昭和33年 6月 5日
4	全国肢体不自由児教育研究協議会	東京都 東京都立光明養護学校	昭和34年 2月14日
5	全国肢体不自由児教育研究協議会	京都府 京都市立呉竹養護学校	昭和34年 6月22～23日
6	全国肢体不自由児養護学校研究協議会	静岡県 静岡県立養護学校	昭和35年12月 2～ 3日
7	全国肢体不自由児教育研究協議会	愛知県 愛知県立養護学校	昭和36年12月 7～ 8日
8	全国肢体不自由児教育研究協議会	東京都 東京都立江戸川養護学校	昭和37年11月29～30日
9	全国肢体不自由児教育研究協議会	兵庫県 尼崎市立尼崎養護学校	昭和38年11月 7～ 8日
10	全国肢体不自由児教育研究協議会	東京都 東京教育大附属桐が丘養護学校	昭和39年11月26日
11	全国肢体不自由児教育研究協議会	福島県 福島県立養護学校	昭和40年10月22～23日
12	全国肢体不自由児教育研究協議会	香川県 香川県立養護学校	昭和41年 9月29～30日
13	全国肢体不自由児教育研究協議会	愛知県 愛知県立岡崎養護学校	昭和42年 9月27～28日
14	全国肢体不自由児教育研究協議会	大阪府 大阪府立堺養護学校	昭和43年11月21～22日
15	全国肢体不自由児教育研究協議会	東京都 東京教育大附属桐が丘養護学校	昭和44年11月 1日
16	全国肢体不自由児教育研究協議会	鹿児島県 鹿児島県立養護学校	昭和45年11月20～21日
17	全国肢体不自由児教育研究協議会	宮城県 宮城県民会館、仙台大学、 宮城県立船岡養護学校	昭和46年10月14～15日
18	全国肢体不自由児教育研究協議会	千葉県 千葉県立桜が丘、袖ヶ浦、松戸、各養護学校	昭和47年11月20日
19	全国肢体不自由児教育研究協議会	愛知県 愛知県立名古屋、岡崎、一宮各養護学校	昭和48年10月18日
20	全国肢体不自由児教育研究協議会	広島県 広島市青少年センター	昭和49年10月24～25日
21	全国肢体不自由児教育研究協議会	兵庫県 宝塚市民会館、宝塚勤労福祉会館	昭和50年10月17～18日
22	全国肢体不自由児教育研究協議会	熊本県 熊本市民会館、熊本観光ホテル、 熊本センターホテル	昭和51年10月17～18日
23	全国肢体不自由児教育研究協議会	北海道 札幌市定山溪ホテル	昭和52年 9月21～22日
24	全国肢体不自由児教育研究協議会	神奈川県 箱根町ホテルおかだ	昭和53年 7月 7～ 8日
25	全国肢体不自由児教育研究協議会	愛知県 名古屋市愛知会館、王山会館	昭和54年11月 8～ 9日
26	全国肢体不自由児教育研究協議会	徳島県 徳島県郷土文化会館他	昭和55年11月 5～ 7日
27	全国肢体不自由児教育研究協議会	奈良県 奈良県婦人会館、同文化会館	昭和56年11月 5～ 7日
28	全国肢体不自由児教育研究協議会	福岡県 福岡サンパレス、都久志会館	昭和57年11月10～12日
29	全国肢体不自由児教育研究大会	北海道 札幌市教育文化会館、 北海道自治会館第2水産ビル	昭和58年 9月28～30日
30	全国肢体不自由教育研究大会	神奈川県 箱根町ホテルおかだ	昭和59年11月 7～ 9日
31	全国肢体不自由教育研究大会	愛知県 愛知県中小企業センター	昭和60年11月13～15日
32	全国肢体不自由教育研究大会	岡山県 岡山ロイヤルホテル	昭和61年11月12～14日
33	全国肢体不自由教育研究大会	兵庫県 宝塚グランドホテル	昭和62年11月11～13日

	大会名	開催地	開催期間
34	全国肢体不自由教育研究大会	大分県 鶴見園グランドホテル	昭和63年11月 9～11日
35	全国肢体不自由教育研究大会	宮城県 ニュー水戸屋、 拓桃養護学校拓桃医療教育センター	平成元年11月 8～10日
36	全国肢体不自由教育研究大会	栃木県 鬼怒川温泉あさやホテル	平成 2年11月 7～ 9日
37	全国肢体不自由教育研究大会	静岡県 熱海市シャトーホテル	平成 3年11月 6～ 8日
38	全国肢体不自由教育研究大会	大阪府 エルおおさか愛媛県	平成 4年11月18～20日
39	全国肢体不自由教育研究大会	愛媛県 県民文化会館、道後プリンスホテル他	平成 5年11月 9～11日
40	全国肢体不自由教育研究大会	長崎県 長崎県勤労福祉会館、長崎農業会館、 長崎市民会館	平成 6年11月16～18日
41	全国肢体不自由教育研究大会	北海道 北海道真駒内養護学校、 北海道立道民活動センター	平成 7年10月24～26日
42	全国肢体不自由教育研究大会	群馬県 水上町水上館・ホテル黎楽、水上町観光会館	平成 8年11月19～21日
43	全国肢体不自由教育研究大会	石川県 金沢市文化ホール金沢商工会議所、 石川県文教会館	平成 9年11月19～21日
44	全国肢体不自由教育研究大会	滋賀県 長浜文化芸術会館、 長浜ドーム長浜ロイヤルホテル、臨湖、住文	平成10年11月10～12日
45	全国肢体不自由教育研究大会	広島県 メルパルクHIROSHIMA、鯉城会館、 広島県民文化センター	平成11年11月24～26日
46	全国肢体不自由教育研究協議会	宮崎県 宮崎厚生年金会館、みやざき会館、ひまわり荘	平成12年11月 8～10日
47	全国肢体不自由教育研究協議会	山形県 山形中央公民館、山形グランドホテル	平成13年11月 7～ 9日
48	全国肢体不自由教育研究協議会	千葉県 ホテルポートプラザちば、 OVTA千葉勤労者総合福祉センター	平成14年11月13～15日
49	全国肢体不自由教育研究協議会	愛知県 ルブラ王山、愛知県中小企業センター	平成15年11月12～14日
50	全国肢体不自由教育研究協議会	和歌山県 コガノベイホテル、ホテル古賀の井	平成16年11月17～19日
51	全国肢体不自由教育研究協議会	鳥取県 米子コンベンションセンター、 米子ワシントンホテルプラザ、米子市文化ホール	平成17年11月16～18日
52	全国肢体不自由教育研究協議会	佐賀県 はがくれ荘	平成18年11月15～17日
53	全国肢体不自由教育研究協議会	北海道 ガトーキングダムサッポロ	平成19年11月14～16日
54	全国肢体不自由教育研究協議会	茨城県 ホテルレイクビュー水戸、 茨城県民文化センター大ホール	平成20年11月12～14日
55	全国肢体不自由教育研究協議会	三重県 四日市都ホテル、じばさん三重、 四日市市文化会館	平成21年11月18～20日
56	全国肢体不自由教育研究協議会	奈良県 奈良ロイヤルホテル、奈良県文化会館他	平成22年11月10～12日
57	全国肢体不自由教育研究協議会	高知県 高知県立県民文化ホール、高知会館、 高知共済会館	平成23年11月16～18日
58	全国肢体不自由教育研究協議会	沖縄県 沖縄県男女共同参画センターているる、 沖縄県自治研修所、沖縄ポートホテル他	平成24年11月14～16日
59	全国肢体不自由教育研究協議会	秋田県 秋田市にぎわい交流館AU、 秋田キャッスルホテルカレッジプラザ	平成25年11月13～15日

	大会名	開催地	開催期間
60	全国肢体不自由教育研究協議会	新潟県 万代シルバーホテル、 ANAクラウンプラザホテル新潟	平成26年11月12～14日
61	全国肢体不自由教育研究協議会	長野県 メルパルク長野	平成27年11月11～13日
62	全国肢体不自由教育研究協議会	京都府 京都テレサ	平成28年11月 9～12日
63	全国肢体不自由教育研究協議会	山口県 周南市新南陽ふれあいセンター、 ホテルサンルート徳山	平成29年11月15～17日
64	全国肢体不自由教育研究協議会	福岡県 福岡リーセントホテル、福岡国際会議場	平成30年11月20～22日
65	全国肢体不自由教育研究協議会	青森県 八戸グランドホテル、八戸商工会館、 八戸ポータルミュージアムはっち	令和元年11月13～15日
66	全国肢体不自由教育研究協議会	埼玉県 埼玉県立越谷特別支援学校(WEB開催) (新型コロナウイルス感染症拡大予防のため変更実施)	令和 2年12月11～25日
67	全国肢体不自由教育研究協議会	富山県 富山県立富山総合支援学校(WEB開催) (新型コロナウイルス感染症拡大のためWEBで実施)	令和 3年12月13～27日
68	全国肢体不自由教育研究協議会	兵庫県 姫路市文化コンベンションセンターアクリエひめじ (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人数を制限 した会場開催とWEB開催のハイブリッドで実施)	令和4年11月17日(会場開催) 令和4年12月21日～ ～令和5年1月10日
69	全国肢体不自由教育研究協議会	島根県 島根県民会館 (新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人数を制限 した会場開催とWEB開催のハイブリッドで実施)	令和5年11月2日(会場開催) 令和5年12月18日～ ～令和6年1月31日
70	全国肢体不自由教育研究協議会	熊本県 市民会館シアーズホーム夢ホール 熊本市国際交流会館	令和6年11月13日～15日
71	全国肢体不自由教育研究協議会	北海道 アートホテル旭川	令和7年11月19日～21日

## 第72回全国肢体不自由教育研究協議会北海道大会役員

### 大会会長

全国特別支援学校肢体不自由教育校長会 会長

東京都立光明学園 統括校長

島 添 聡

### 大会副会長

東京地区特別支援学校肢体不自由教育校長会 会長

東京都立志村学園 校長

並 木 信 治

東京都立花畑学園 校長

永 島 崇 子

北海道・東北地区特別支援学校肢体不自由教育校長会 会長

山形県立ゆきわり養護学校 校長

村 上 未 紀

関東・甲越地区特別支援学校肢体不自由教育校長会 会長

埼玉県立川島ひばりが丘特別支援学校 校長

原 子 一 彦

中部地区特別支援学校肢体不自由教育校長会 会長

静岡県立西部特別支援学校 校長

本 杉 和 美

近畿地区特別支援学校肢体不自由教育校長会 会長

兵庫県明石市立明石養護学校 校長

高 田 善 彦

中国・四国地区特別支援学校肢体不自由教育校長会 会長

岡山県立岡山東支援学校 校長

原 田 敬 子

九州地区特別支援学校肢体不自由教育校長会 会長

佐賀県立金立特別支援学校 校長

河 野 健 治

## 全国特別支援学校肢体不自由教育校長会

事務局長 東京都立村山特別支援学校 校長

阿 部 智 子

事務局次長 東京都立墨東特別支援学校 校長

西 岡 陽 子

事務局次長 東京都立八王子東特別支援学校 校長

加 藤 久美子

## 第 71 回全国肢体不自由教育研究協議会北海道大会実行委員会事務局

大会実行委員長	北海道真駒内養護学校 校長	高 木 美 穂
大会副実行委員長	北海道旭川養護学校 校長	佐々木 建
大会実行委員	北海道拓北養護学校 校長	仲 條 正 輝
大会実行委員	北海道手稲養護学校 校長	星 野 健 史
大会実行委員	北海道函館養護学校 校長	増 田 望
大会実行委員	北海道網走養護学校 校長	鴻 江 康 人
大会実行委員	市立札幌豊成支援学校 校長	宗 石 健太郎
大会実行委員	市立札幌北翔支援学校 校長	山 田 浩 富
大会事務局長	北海道岩見沢高等養護学校 校長	野 中 宏
大会事務局次長	北海道岩見沢高等養護学校 教頭	大 山 伸 吾
大会事務局次長(会計)	北海道岩見沢高等養護学校 事務長	松 原 秀 典
大会代表事務局員	北海道岩見沢高等養護学校 教諭	三 井 隆 行